



令和3年度 当初予算

一般会計

予算編成に先立って試算した「今後の財政見通し（広報よしのが令和3年1月号掲載）」では、現状の財政運営を今後も継続した場合には基金（預貯金）が令和6年度に枯渇し、赤字となる極めて厳しい結果となりました。

吉野川市発足以来の危機的な見通しであることから、令和3年度当初予算編成においては、「第4次行財政改革大綱・実施計画」を抜本的に見直し、新たな歳入の確保や庁内の徹底した経費削減、補助金などを含めた既存事業の見直しなど、歳入・歳出両面から財政構造の転換を図った結果、一般会計予算額は、前年度比4.6%減の193億6130万円となりました。

当初予算編成後に更新した財政見通しでは、赤字となる時期が1年延伸び、令和7年度となりましたが、依然厳しい財政状況に変わりありません。将来世代に魅力ある市を引き継いでいけるよう、従来の考え方や手法にとらわれる

ことなく、抜本的な行財政改革の取り組みを進めていきますので、市民の皆さんのご理解

※6本柱の事業概要は8ページへ

主な歳入（収入）

市税

新型コロナウイルス感染症の影響や固定資産税の評価替えによる減収などにより、総額で前年度比4.4%減の37億6201万9千円を計上しました。

地方交付税

近年の実績などを踏まえ試算し、前年度比3.0%増の68億円を計上しました。

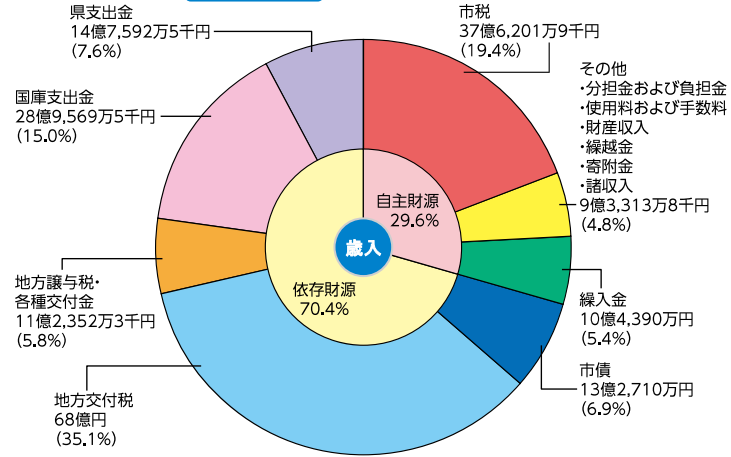
繰入金

市債の償還の財源として減債基金から5億円を繰り入れるほか、不足する財源を補てんするため財政調整基金から5億800万円を繰り入れることにより、総額で前年度比55.2%減の10億4390万円を計上しました。

市債

山瀬小学校体育館改築事業で2億3710万円、地方財源の不足に対処するため臨時財政対策債で8億円の発行を予定しているため、総額で前年度比16.6%増の13億2710万円を計上しました。

歳入 193億6,130万円



特別会計・企業会計

市には、一般会計とは別に、特定の事業を行う場合に、特定の歳入歳出を一般会計の歳入歳出と区別して処理するための会計があります。国民健康保険や介護保険などがこれにあたり、一般会計

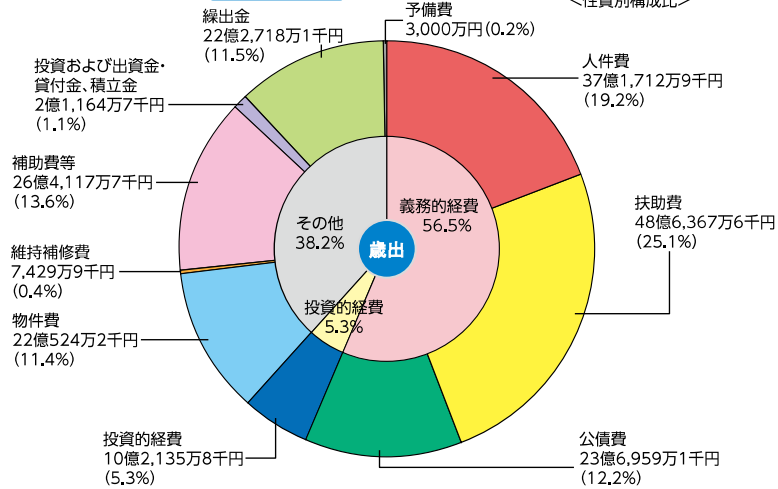
とは別に特別会計といわれます。

また、一般会計、特別会計以外に、独立採算を原則とし、企業的な事業を行う水道事業会計などがあります。各会計の予算額は次のとおりです。

特別会計			
会計名	予算額		
国民健康保険特別会計	46億8,618万9千円		
後期高齢者医療特別会計	6億8,699万6千円		
介護保険特別会計	56億5,584万9千円		
企業会計			
会計名	予算額		
水道事業会計	収益的収入および支出	収入	6億8,111万円
		支出	6億4,825万5千円
	資本的収入および支出	収入	6億1,441万3千円
		支出	10億1,534万8千円
下水道事業会計	収益的収入および支出	収入	12億3,545万9千円
		支出	12億81万8千円
	資本的収入および支出	収入	9億598万9千円
		支出	12億7,654万5千円

歳出 193億6,130万円

<性質別構成比>



主な歳出（支出）

義務的経費

職員給与や特別職給料、会計年度任用職員報酬などの減により前年度比1.7%減の37億1712万円を計上しました。

福祉的経費

生活保護扶助費や私立認可保育園委託料の減などがあつたものの前年度と同程度の48億6367万円を計上しました。

公債費

定期償還金の増により前年度比0.9%増の23億6959万1千円を計上しました。

投資的経費

山瀬小学校体育館改築事業や都市再生整備事業が増となったものの、一般廃棄物処理事業や消防防災施設等整備事業が減となったことにより前年度比31.4%減の10億2135万8千円を計上しました。

その他の経費

物件費、補助費等、繰出金などを合わせたその他の経費は、前年度比5.4%減の73億8954万6千円を計上しました。